

くり（殺菌剤・殺虫剤）

指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名(商品名)	実炭疽病	モノゴマダラノメイガ	ネスジキノカワガ	クリミガ	クリシギゾウムシ	カツラマルカイガラムシ	アブラムシ類	カミキリムシ類	クリタマバチ	キクイムシ類
アディオン乳剤					△				●	
アブロード水和剤						●				
エルサン乳剤		●				●	●			
ガットサイドS										●
サッチューコートSセット								●		●
スプレーオイル						●				
スミチオン水和剤40		△							●	
トクチオン乳剤		●	●							
パーマチオン水和剤					△		●			
パダンSG水溶剤		●	●							
フェニックスフロアブル		●								
ベンレート水和剤	●									
マシン油乳剤95						●				
マブリック水和剤20					△		●		△	
モスピラン顆粒水溶剤		△		●	●	△	△			
ロビンフード								●		

●：指針採用、△：指針には採用していないが登録がある

くり

(1) 実炭疽病 *Colletotrichum gloeosporioides*

(生態と防除のねらい)

- ① 病原菌は、枝梢の病患部や外観上健全に見える枝、特に芽の組織内に潜伏して越冬する。
- ② 発生は、若木よりも樹齢の進んだ成木園で多く見られ、特に密植園に多発する傾向がある。
- ③ 春以降に枯死或いは衰弱した新芽の小枝が伝染源になる。
- ④ きゅう果への感染は、雌花の開花と同時に始まり、果実肥大期（7～8月）に雨が多いと発病が多い。この間の予防散布に重点をおく。
- ⑤ 大和早生、森早生、伊吹、伊沢、筑波などは発病が多い。
- ⑥ クリイガアブラムシの被害は、本病の発生を助長する。
- ⑦ 間伐を徹底し、密植を避け通風採光を図る。
- ⑧ 老木園は改植する。

FRACコード*		農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名			
1	ベンレート水和剤	ベノミル水和剤		普	※

※ ベノミルを含む剤を使用した場合はチオファネートメチルを含む剤を使用しない。ただし、塗布処理は除く。

(2) モモノゴマダラノメイガ

(生態と防除のねらい)

- ① 多食性の害虫で年3回発生し、クリには主に第1世代成虫（7月中旬～8月下旬）由来の幼虫が加害する。
- ② 品種によって被害時期が異なり、早生種には早くから産卵（7月中下旬）し、被害が早期に現れるが、中生～晩生種になるにしたがって、産卵がそれぞれ7～10日程度遅れる傾向があるので防除時期を考慮する必要がある。
- ③ 発生時期は、毎年一定ではないが、一応の目安として早生種は7月下旬～8月中旬、銀寄などの晩生種は、8月上旬～9月上旬の間にそれぞれ2～3回防除を行う。
- ④ 収穫時の被害きゅう果や果実を処分し越冬幼虫を少なくする。

IRACコード*		農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名			
1B	エルサン乳剤	PAP乳剤		劇	
1B	トクチオン乳剤	プロチオホス乳剤		普	
14	パダンSG水溶剤	カルタップ水溶剤		劇	
28	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤		普	

(3) ネスジキノカワガ

(生態と防除のねらい)

- ① 年4～5回発生するが、クリに直接の被害をもたらすのは主に第1世代成虫（6月下旬～7月）による幼果の被害である。
- ② 発生は、年によって変動が大きい。
- ③ 被害の初期発生（6月4～5半旬）に注意し、被害きゅう果を認めた場合は、防除を行う。

IRACコード*		農薬名		毒性	備考
	商品名	一般名			
1B	トクチオン乳剤	プロチオホス乳剤		普	
14	パダンSG水溶剤	カルタップ水溶剤		劇	

くり

(4) クリミガ

(生態と防除のねらい)

- ① 晩生種の果実を加害する害虫の代表というべきもので、九州ではクリシギゾウムシより被害が大きい。
- ② 9月中下旬以降に収穫される品種に被害が大きい。
- ③ 収穫後散乱する果実やイガを10月中旬までに園外に持ち出し処分する。
- ④ 成虫発生期の8月下旬～9月上旬の防除に重点をおく。

農薬名		毒性	備考
IRACコード	商品名		
4A	モスピラン顆粒水溶剤	劇	※①

(薬剤使用上の注意事項)

※① アセタミプリドを含む総使用回数は3回以内（但し、樹幹注入は1回以内）

(5) クリシギゾウムシ

(生態と防除のねらい)

- ① 樹冠下の土中に作った蛹室内で老熟幼虫態で越冬する。成虫は、8月上旬～10月上旬に出現し、9月中旬～10月上旬の産卵行動が最も盛んである。防除は、成虫発生初期の8月上旬～9月上旬に重点をおく。
- ② 果肉内の食害進行の過程で虫糞が外に排出されないため、被害果は発酵、腐敗しやすい。
- ③ 標高300m以上の地域で発生が多い傾向がある。
- ④ 収穫後樹冠下に散乱する果実やイガを10月中旬までに園外に持ち出し処分する。
- ⑤ 休眠期間中に中耕を行い、蛹室を破壊することは密度低下に有効である。

農薬名		毒性	備考
IRACコード	商品名		
4A	モスピラン顆粒水溶剤	劇	※①

(薬剤使用上の注意事項)

※① アセタミプリドを含む総使用回数は3回以内（但し、樹幹注入は1回以内）

(6) カツラマルカイガラムシ

(生態と防除のねらい)

- ① 本虫は、カイガラ自体が小さく、クリの樹皮色に似ている、しかもクリ自体が高木になりやすいため、発見が遅くなる場合が多い。早期発見、初期防除に努める。
- ② 越冬期のマシン油乳剤散布が、天敵への影響も少なく効果が高い。その際、かけもれのないように丁寧に散布を行う。
- ③ P A P乳剤は、7月上旬～下旬の第1世代2齢幼虫の最多発生期に散布する。
- ④ 積極的な肥培管理、間伐、剪定による樹勢強化を図り、被害枝が容易に更新できるようにするなど被害の軽減策をとる。

農薬名		毒性	備考
IRACコード	商品名		
1B	エルサン乳剤	劇	若齢幼虫対象
16	アブロード水和剤	普	登録はカイガラムシ類幼虫
UNM	スプレーオイル	普	登録はカイガラムシ類
UNM	マシン油乳剤95	普	登録は落葉果樹カイガラムシ類

くり

(7) アブラムシ類（クリイガアブラムシ）

(生態と防除のねらい)

- ① 発生初期の4月上旬～5月中旬の防除に重点を置く。
- ② 冬季に園を見回って越冬卵塊を圧殺する。

農薬名		毒性	備考
IRACコード*	商品名		
1B	エルサン乳剤	PAP乳剤	
3A 1B	パーマチオン水和剤	フェンバレレート・MEP水和剤	※①
3A	マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤	

(薬剤使用上の注意事項)

- ※① フェンバレレートを含む農薬の総使用回数は4回以内、MEPを含む農薬の総使用回数は4回（但し樹幹処理は1回以内）。

(8) カミキリムシ類（シロスジカミキリ）

(生態と防除のねらい)

- ① シロスジカミキリは、樹幹の比較的低い部分に連続的に産卵する傾向がある。
- ② いずれも樹勢衰弱の原因となり、特に台風時には枝幹部の折損を助長するので十分な対策を講ずる。
- ③ 薬剤防除は、産卵盛期、食入初期の幼虫を対象に行う（7月上旬～8月上旬）。
- ④ 産卵前に樹冠下の草刈りをして、通風採光をよくする。
- ⑤ 捕殺は、5～6月で1～2週間毎、7月上旬～8月上旬で5～7日毎に園内を見回り、産卵痕の発見に努め、樹皮下の卵を槌で叩きつぶす。シロスジカミキリの場合、産卵痕隆起部の上部を叩くのがよい。幼虫の食入箇所を発見したら、木くずを取り除き刺殺または捕殺する。
- ⑥ 永久樹に対しては、産卵防止のための隔離法（紙巻き法）も検討する。

農薬名		毒性	備考
IRACコード*	商品名		
1B	サッチューコートSセット	MEP乳剤	※① 樹幹部及び主枝に散布又は塗布
3A	ロビンフッド	フェンプロパトリンエアゾル	登録は果樹類※②、カミキリムシ類 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射

(薬剤使用上の注意事項)

- ※① MEPを含む農薬の総使用回数は4回以内（但し、樹幹処理は1回以内）
 ※② 果樹類(かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、オリーブを除く)

くり

(9) クリタマバチ

(生態と防除のねらい)

- ① 萌芽期の薬剤防除は、ゴールの着生率と肥大を抑制し、ゴール内の生存虫を減少させる傾向が見られるが、これだけでは完全な防除とは言えない。よって耕種的防除法との組み合わせによる体系的防除が必要である。
- ② 抵抗性と言われている品種でも衰弱した樹やふところ枝などの弱小枝に多い傾向がある。したがって充実した枝を多くするために間伐、整枝剪定を徹底する。
- ③ 成虫の羽化脱出期（6月上旬～中旬）の防除に重点をおく。
- ④ 被害の激しい産地では抵抗性品種を植栽する。
- ⑤ クリマモリオオナゴバチ、チュウゴクオナゴバチは、本種の密度を低下させるのに有効である。両種はゴール内で越冬するため、剪定枝は天敵の羽化が終了する4月下旬まで圃場内に残し、保護に努める。
- ⑥ 整枝剪定及び間伐を1～3月に実施する。ポイントは、ふところ枝及び弱小枝の剪定を中心に行うこと。また、適正間伐によって弱小枝の増加を防ぐ。
- ⑦ 3～5月に年間施肥量の3～5割を施用し、新梢の伸長充実を図る。

農薬名			毒性	備考
IRACコード*	商品名	一般名		
1B	スミチオン水和剤 40	MEP水和剤	普	
3A	アディオオン乳剤	ペルメトリン乳剤	普	

(10) キクイムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① 樹勢の弱った老木や衰弱樹で発生が多い。
- ② 3月下旬～4月上旬の防除に重点をおく。

農薬名			毒性	備考
IRACコード*	商品名	一般名		
1B	ガットサイドS	MEP乳剤	普	※① 樹幹の地際部から約1.5mの高さまで塗布
1B	サッチューコートSセット	MEP乳剤	普	※① 樹幹部及び主枝に散布又は塗布

(薬剤使用上の注意事項)

- ※① MEPを含む農薬の総使用回数は4回以内（但し、樹幹処理は1回以内）